

子供たちが、いつか英語で世界と勝負するために。

中学・高校の教育現場で活用される グローバルコミュニケーションへの架け橋

活用例 1

品川女子学院 中等部・高等部

「世界をこころに」というミッションを掲げる品川女子学院では国際的に活躍する人材の育成を目標とし、TOEIC Bridge™/TOEICテストを活用している。

「当校では、二八歳になったときに社会で活躍することをゴールイメージにした『28プロジェクト』を推進しています。入学後、生徒たちに長期的な目標に対してどう行動していくかを考えてもらうのですが、国際的な場で活躍を望む生徒たちは、すでに英語を勉強科目ではなくコミュニケーションの手段としてとらえています。ですから、実社会で用いられる世界共通の指標であるTOEICプログラムを採用しているのです」

漆紫穂子校長はこう語る。
同校では中学三年の英会話の授

業の一部でTOEIC Bridgeを指導。高校一年生では定期テストと同じタイミングで三回実施し、英会話の成績に反映。また、TOEIC Bridgeで一定の点を取得した生徒には、TOEICテストの受験をすすめている。中学三年生に、なぜTOEIC Bridgeなのかをしっかりと説明すると漆校長は言う。「TOEIC Bridgeなら日常生活から題材を得た社会につながる問題を通して英語力がつく。さらにBridgeの先のTOEICのスコアは企業での昇進や海外赴任の要件になっていることを説明します。これにより、二八歳になったときの自分のイメージと、

Q TOEIC Bridge導入のメリットは？
A ① 基礎的な英語力を身につける指針になる。
② リスニング力や速読力がつき、センター入試対策にもなる。
③ 大学で留学の選抜や、英語のクラス分けでも活用されているTOEICテストへの移行がスムーズ。

活用例 2

日本大学第三高等学校・中学校



日本大学第三高等学校・中学校
堀内 正
1949年、山梨県生まれ。1971年、日本大学第三学部に入学。硬式野球部長・高校教頭・中学校教頭を経て、2010年高等学校・中学校校長に就任。

日本大学第三高等学校・中学校のTOEIC Bridge導入は、二〇〇六年度に遡る。その後、中部の生徒全員でTOEIC Bridge受験を開始、一方の高校では受験は希望者のみに限られるものの、三年生には大学生や社会人が受けるのと同じTOEICテスト受験を推奨するなど、積極的にプログラムを活用している。二〇一〇年度、TOEIC Bridgeを受験した中学生だけで八五三人、高校生はTOEICテストを中心に八〇人ほどを数える。TOEIC Bridgeにこれほど注目する理由は何か。同校の堀内正校長が語る。「スコアを経年比較して、成績が伸びていくのを実感しながら継続でき、結果がフィードバックされる時には、苦手な部分の指摘を受けること

TOEIC Bridge TOEIC®入門テスト

今学習しているTOEIC Bridgeが、ながって学習意欲が増し、定着度がぐんと上がっているのです」
中学三年生は、ニュージラードへの修学旅行前に、初のTOEIC Bridge受験を迎える。このタイミングも重要なポイントだという。「海外への修学旅行で生徒たちのモチベーションが上がる時期にTOEIC Bridgeを受験することで、生徒たちのやる気のスイッチが入り、学力が一層伸びます。こうした効果を生むために学校行事や試験とTOEIC Bridgeを組み合わせるよう気を配っています」



品川女子学院
学校長
漆 紫穂子
1961年、東京都生まれ。私立中高一貫校の教師を経て、品川女子学院へ。06年校長に就任。著書は「女の子が幸せになる子育て」(かんき出版)、「女の子が幸せになる授業」(小学館)。

あり、在学時に受験してよかったという声は多い。漆校長は言う。「卒業までに、留学経験なしでTOEIC七九〇点を取得した生徒がいました。学校全体で中学のうちかSTOEIC Bridgeを効果的に活用すれば、留学なしでも語学力はつくという証明だと思います」

生きた英語を学ぶために

Q テスト内容と解答の形式は？
A テストは英文のみで構成され、解答方法の指示も英文のみです。リスニングセクションの出題スピードは、TOEICテストより遅く、ネイティブスピーカーが「注意深く話す」際のスピードです。

- マークシート方式 1時間・100問
- リスニング 25分間 50問
- リーディング 35分間 50問

むようになった生徒が増え、希望者が殺到。出場者の人数を絞るほどの人気だという。
また、日本大学の各付属高校から精鋭三名ほどを日本大学の学術交流協定校である英国ケンブリッジ大学へ送り込む、年に二回の語学研修もある。そして、この研修参加者の選抜においても、スピーチコンテストの結果などに加えて、より実践的な国際基準であるTOEIC BridgeやTOEICスコアを、同校では参考にしていくという。
TOEIC Bridge導入の効果を堀内校長は次のように語る。「TOEIC Bridgeのリスニング問題は二五分間で五〇問。相当な分量です。しかし、これを体験することで、リスニングに対するスタミナがアップします。三〇分間で二五問ある、大学入試センター試験のリスニングへの恐怖心もなくなるようですね」
堀内校長は、TOEIC Bridge導入のもうひとつのメリットをこう語る。「生徒がネイティブの先生に気軽に声をかけるようになりました。いい雰囲気です」
TOEIC BridgeはTOEICテストにつながり、将来にきっと役立つという理由から、保護者の評判もたいへんよいということです。

TOEIC Bridge®とは？

TOEIC Bridgeは「TOEICの架け橋」という意味を込めて、基礎的な英語コミュニケーション能力を評価するために開発された、世界共通のテストです。年齢に関係なく、初・中級レベルの英語能力を確かめたい方や、TOEICテストの受験準備をしたい方におすすめします。TOEICテストよりも「やさしい」「日常的で身近」「試験時間が短い」といった特長を持っています。

TOEIC Bridge®と TOEICテスト採用校

- 慶應義塾高等学校
 - 東京学芸大学附属国際中等教育学校
 - 法政大学中学高等学校
 - 明治大学付属中野中学校・高等学校
 - 早稲田実業学校
 - 中京大学附属中京高等学校
 - 同志社高等学校
 - 同志社女子高等学校
- *2010年度採用学校より抜粋

TOEIC Bridge® 公開テスト受験案内

- ◆ 試験実施月: 3月、6月、9月、11月 (年4回)
- ◆ 受験地: 全国13都市
札幌、仙台、埼玉、千葉、東京、神奈川、名古屋、京都、大阪、兵庫、岡山、広島、福岡
- ◆ 受験料: 4,200円(税込)
- ◆ 申込方法: インターネットまたは、下記の電話番号へ申込書を請求
*お申込の流れは、公式サイトでご確認ください。

◆ 第42回スケジュール:
試験日: 2012年3月4日(日)
申込期間: 2011年12月20日(火) ~ 2012年2月1日(水)
結果発表予定日: 2012年4月6日(金)

*公開テストのスケジュールは変更になる場合があります。最新の情報、詳細は公式サイトでご確認ください。

◆ 問い合わせ:
財国際ビジネスコミュニケーション協会
IIBC試験運営センター
☎03-5521-6007

Copyright © 2011 by Educational Testing Service. All rights reserved. ETS, the ETS logos and TOEIC are registered trademarks of Educational Testing Service in the United States of America and other countries throughout the world.